駅からぶらり旅

文＝伊藤哲也
写真＝亀卦川 英樹

◎第一〇六回 名寄駅から浜頓別町へ

ホテルの近くの道路沿いで見かけたキタキツネ。いい毛並みだった。

この宿に泊まるのは十年ぶりだな。そう思いながら、フロントに向かった。「はまとんべつ温泉ウイング」は、クッチャロ湖畔に建つ。二十室すべてが湖水に面したホテルである。

「平成二十五年に三棟、令和三年に一棟、温泉コテージを建設しました。最近はそちらの人気が高いですね」と、高橋将之（たかはしまさゆき）支配人。懐かしさもあって、ホテルの部屋に荷物を解いた。

湖畔へ散策に出ると、森からキタキツネが姿を現し、先導するように歩いていく。大丈夫、以前にも来たことがあるんだよ、と心の中で呟きながら、カメラに収めた。「リスやシカ、ウサギなどの野生動物もよく見られます」という高橋支配人の言葉通りだ。

夕暮れの湖畔に、コハクチョウが群れていた。グレーの個体は幼鳥なのだろう。湖畔に建つ「浜頓別（はまとんべつ）クッチャロ湖水鳥観察館」の展示によると、コハクチョウたちはロシア極東の大地で六月に卵を産む。やがて雛がかえり、成長するにしたがって飛ぶ練習を始める。

九月頃、越冬地である日本列島へと、約四千キロの旅が始まる。クッチャロ湖は本州各地への旅の経由地の一つだ。取材時にはピークを過ぎていたが、数千羽がここで羽を休め、さらに南へと飛んでいく。

このクッチャロ湖で越冬するコハクチョウも、毎年数百羽いるようだ。本州で越冬したコハクチョウたちは、春にまたここを経由して、北へ帰っていく。昨春のピークは四月十五日、八千羽あまりだった。コハクチョウのみならず、多くの渡

クッチャロ湖畔の浜頓別クッチャロ湖水鳥観察館。コハクチョウをはじめ野鳥を中心に、周辺の自然環境を知ることができる。
●枝幸郡浜頓別町クッチャロ湖畔 ☎01634・2・2534。9:00～17:00、月曜日、祝日の翌日、年末年始休館。無料。

夕暮れ時のクッチャロ湖、飛び立っていくコハクチョウ。ねぐらへと行こうとしているのだろうか。

記事の内容、表示金額は取材日（2023年11月22・23日）時点のものです。予告なく営業時間の変更や休業、商品の販売中止などの場合があります。ご利用の際は予めご確認ください。表記の金額は全て税込みです。

り鳥の休憩地であり、日本最北のラムサール条約登録湿地である。この日はオナガガモの群れも見られた。

宿へ戻って、とろりとした湯に身を沈めた。湯質のよさは十年前と変わらない。ほんのり黄緑がかった透明な湯は、pH八・二とアルカリ性。肌をなめらかにすべり、指のあいだまでつるつるになる。露天はないが、ゆるやかにカーブした大きな窓から、外の景色も楽しめる。

湯上がり後、すぐに夕食となった。この日は造り、ホタテ焼き、鯖の竜田揚げ、エビフライ、豚肉の生姜焼き、茶碗蒸しなど。ふっくらと弾力のあるホタテ焼きは、ビールのいいお供になった。

食後は部屋に戻って、静かに本を読む。湖水を渡る風の音がかすかに聞こえる。真冬にこもるなら、こんな落ち着いた宿がいいと思いながら、眠りについた。

翌朝、「クッチャロ湖エコワーカーズ」を訪ねた。クッチャロ湖と周辺の自然環境の保全を目的に、二〇〇六年に設立され、翌年NPO法人化した。現在は個人・法人の寄付などを受けながら、中島と呼ばれるエリアの緑化を進めている。

また環境教育の一環として、カヌー、フォレストアドベンチャー、鹿狩り（駆除）見学、野鳥・花の観察、スノーモービル・スノーシューのエコツアーなども行っている。いわば「中島の森の番人です」と、副理事長・事務局長の西東勝昭（さいとうかつあき）さん。

大浴場には温泉のほか、真水の湯、水風呂、サウナがある。泉質はナトリウム-塩化物・炭酸水素塩温泉。100%源泉で、殺菌・循環ろ過している。

ウイングのコテージ内部。各棟の中庭には、バーベキューができるスペースがある。風呂は源泉かけ流しの温泉だ。

ホタテ焼きはバターと醤油の味付け。残った汁にご飯を混ぜて食べると、これがまたいい。

甘エビとホタテの造り。コテージ宿泊者も、レストランでの食事ができる（料金別途）。

（左）クッチャロ湖エコワーカーズの西東さんはリタイア後、NPO活動に力を注いでいる。第二の人生を充実して過ごす人は、穏やかな笑顔になれるのだ。（下）クッチャロ湖エコワーカーズが出している広報誌「KUTCHARO PRESS」。事務所は湖畔のキャンプ場の先にある。

●はまとんべつ温泉ウイング／枝幸郡浜頓別町クッチャロ湖畔40 ☎01634・2・4141。チェックイン15:00、チェックアウト10:00。1泊2食付き2名1室ひとり9,190円～（和室2名～）。コテージは1棟20,900円～（季節により変更有、入湯税150円×人数分別途）。※コテージは冬季暖房料1,650円、日帰り入浴は11:00～21:00（入館20:30まで）、大人600円、無休。※14:00入館まで、大人450円（割引料金）。

「今日はまず、オオワシを見に行きましょう」と、西東さんの運転で、ウソタンナイ川にあるオオワシたちの狩場に着いた。そっと近づいたつもりだったが、気配を感じて三々五々飛び立っていく。その数、十数羽。冬の澄んだ青空を背景に、悠々と滑空する姿には王者の風格があった。

例年十一月から一月くらいまで、オオワシやオジロワシの観察ができる。今回は二十羽近いオオワシが、岸辺の大木にとまっているのを見ることができた。ウソタンナイ川の支流では、遡上したサケが産卵していた。彼らはやがて、オオワシなどの栄養となるのだろう。

雨が降り始めたので、森歩きを変更し、車での移動になった。「中島の森は長らく人の手が入らず、放置されていました。私たちは計画的にササ刈りや伐採をして、アカエゾマツやミズナラなどの植樹を進め、針広混交林の育成を目指しています。植樹活動は企業の研修や地元の中学生の環境教育としても行い、皆さんの協力で森の再生を図っています」（西東さん）。

NPOの建物に戻った頃に雨が上がり、湖の上に虹がかかった。海と森と湖は、一つの環境を形成し、それがコハクチョウたちの貴重な飛来地にもなっている。オホーツク海につながるクッチャロ湖は、人も動物も植物も豊かに育ててくれていた。Ⓙ

ウソタンナイ川近くの田園風景。浜頓別は漁業と酪農のまちである。

大きく翼を広げ、空をわがものとするオオワシ。ウソタンナイ川と頓別川の合流点付近。

サケのペアが産卵行動を繰り返していた。

地元の中学生が集めたドングリから苗木を育て、中島の森に植樹している。

クッチャロ湖にうっすらと虹がかかっていた。

●クッチャロ湖エコワーカーズ／枝幸郡浜頓別町クッチャロ湖畔白鳥舎内 ☎01634・2・0028。ガイドツアーの申し込み・お問い合わせは http://kutcharo.or.jp/ ※野鳥や花の観察ガイドは電話で相談を。